



# パラオ通信

No. 24 /3/21/2020

JICA 海外協力隊 SV 天野久雄

前回に続いてアウェアネスウィークの報告をします。今回はパラオ高等学校の行事です。ちなみに上の写真はパラオ高校の数学の先生たちと私です。みな陽気なフィリピン人です。

パラオ高校も研究発表会、スポーツ大会、文化祭と発表内容は小学校と同じですが、学生たちが中心になって準備や運営をしていました。ちょっと大人の雰囲気がありました。



左は校舎の周りを整備している様子です。4年生で栽培（アグリカルチャー）コースを選択している学生たちが、校舎の周りの植木を入れ替えています。親指を立てた元気な男性は先生です。右は街中をパレードする車の飾り付けをする学生たちです。テーマは「海の環境保護」です。飾り付けはもちろん、車の運転も学生たちがします。



こちらは木材加工（コンストラクション）を選択している学生たちの作品です。バベルダオブ島にたくさんあるマホガニーという木を加工して、高級家具を作っています。オークションにかけられ、最終日にその売り上げ金が発表されます。作業場には大型機材や塗料などが完備されているので、海外で売り出せば10万円以上の値段がつくものばかりです。

この4日間は街中のパレードに始まり、研究発表会やスポーツ大会、さらには学園祭のようなイベントまでありました。パラオ高校のイベントも、学生や先生たちが楽しむという雰囲気がいっぱいでした。



これは何の写真かわかりますか？両サイドの男女ペアから1年、2年、3年、4年の学生たちです。それぞれの男女のペアがこの1年間にどのような活動をしたのか、その成果は何であったのかを友達が発表します。その成果を表彰するとともに、代表のペア「ミスター&ミス・パラオハイスクール」を決めるイベントです。審査員は先生たちと学生たちの両方です。

男女の美を競うコンテストではありませんが、見ていて楽しく観客である学生たちから大きな拍手やエールが送られていました。発表を聞いた先生や学生たちはスマートフォンを使って投票するので、投票結果がすぐに集計されます。

3日目のスポーツ大会は「アサヒ・キュウジョウ」でのソフトボール大会でした。昨年は卓球やバスケットボールなどもありましたが、国立体育館が改装中なのでありませんでした。

最終日は「日本・パラオ友好橋（KBブリッジ）」の公園が会場でした。この橋はコロール島とバベルダオブ島を結ぶ橋を日本が再建したものです。橋のたもとが広い公園になっていて、大きなイベントができるようになっています。



この日の午前中は焼き鳥やバーベキューのランチ作り、ココナッツの皮むき競技、学生たちのライブ演奏などでした。午後は4日間のまとめ(閉会式)でした。



左はココナッツの皮むき競技です。ココナッツを先が尖った杭に突き刺して皮をむきます。むき終わるまでの時間を競います。だいたい2分程度でむき終わります。左の赤いTシャツの審査員が校長先生です。右はココナッツを自分で割って中の白い果肉を削り取る競技です。今でもパラオの人はこのような手作業で果肉を取り出して料理に使います。

## 終わりに

私はバベルダオブ島のそのほかの小学校も回りましたが、どの学校でも先生たちが楽しんでいるという印象を強く受けました。先生と生徒、学生たちとの人間関係が良好で温かい雰囲気も感じました。

近年はパラオの文化や伝統が日常生活では薄れてきています。パラオの人々はアメリカ合衆国から物資だけでなく、映画や音楽、生活様式までも抵抗感なく受け入れています。その一方で大人たちが、伝統料理や言語、歴史を子どもたちに伝えていこうとしている姿にも感銘を受けました。

